

## 6 教職独自の専門教育科目

※教科及び教職に関する科目並びに養護及び教職に関する科目のうち、全学科専門教育科目分以外のみ記載している。各種教育職員免許状取得に必要な科目は便覧で確認すること。

教育学概論 B	.....
教育と社会・地域	.....
特別の支援を必要とする子供の理解	.....
総合的な学習の時間と指導法	.....
教育課程編成論	.....
道徳教育（人間社会学部）	.....
道徳教育 A（看護学部）	.....
特別活動	.....
特別活動・総合的な学習の時間	.....
教育方法論（看護学部）	.....
教育方法論（人間社会学部）	.....
生徒指導論（人間社会学部）	.....
生徒指導論（看護学部）	.....
教育相談	.....
教師論	.....
教育課程論	.....
社会科教育法 I	.....
社会科教育法 II	.....
公民教育法 I	.....
公民教育法 II	.....
教育心理学概論	.....
中学校教育実習事前事後指導	.....
中学校教育実習	.....
高校教育実習事前事後指導	.....
高校教育実習	.....
教職実践演習（中高）	.....

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育学概論B			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Educational Research B			授業コード	
必修・選択	必修・選択	関連資格	高等学校教諭（公民）、中学校教諭（社会）、養護教諭		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項を修得する。教育学は、乳幼児から成人にいたるまでの人間の成長と変化の過程を科学的、経験的に考察する。教育学の課題は、学校教育にとどまらず多様な側面をもつ。本講義では、教育学の基礎的概念を修得し、受講者による事前の調査、討論を通じて、知識の実践的な活用を体験する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	ポウルヴィ『母と子のアタッチメント』医歯薬出版、1993、勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015、学習指導要領（2017年度改訂）				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	レスポンスカードあるいはメールで受け付ける。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	教育学における基礎的概念を理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	教育にかかわる事象を教育的に分析できるようになる。
		(DP4)	自己の意見を明晰に表現し、他者と協議できるようになる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	グループワークを通じ自らの思考を論理的に伝達できるようになる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項について正確に理解したうえで、自らの考えを論理的に伝達することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項にかかわる用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		20			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○				
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○	○			
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)			○			
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション(教育の概念・本質・目標)	講義	シラバスの精読
2	教育政策の歴史と現代的な課題	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
3	教育の理念・思想(家庭教育と近代教育)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
4	「教育」の理念とは何か—これまでの体験から	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
5	教育の本質と目標(陶冶論、科学としての教育学)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
6	教育の本質と目標(家庭教育、人間形成の概念)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
7	教育の本質と目標(学校教育、現代の学校)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
8	近代の教育制度(義務制・無償制・中立性)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
9	現代日本の家庭教育と学校教育の歴史的展開	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
10	教育課題の歴史と現状	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
11	子どもと家庭教育(発達段階)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
12	子どもと家庭教育(経験主義と体験学習)	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
13	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備

14	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	指定資料の精読とレポート準備
15	講義全体の振り返り	講義とグループワーク	指定資料の精読
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育と社会・地域		単位	1 単位	
科目名（英語）	Education and Society/Community		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	1 年	開講時期	後期		
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	本講義では、教育に関する社会的事項に焦点を当て、教員として必要な基礎知識の理解を深める。また、学校と地域との連携や学校安全への対応についても実情を踏まえ、その具体的な取組についても学んでいく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書 ・教材等	参考資料：適宜紹介する。				
実務経験を 生かした授業	現役の養護教諭を特別講師として招聘し、学校安全に関する事例等において安全上の課題とその取組事例について講義する。	授業中の 撮影	○		
学習相談 ・助言体制	レスポンスカードで受付、返却時にコメントを追加して回答する。また、メールによる相談も可。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	教育に関する社会的事項や学校地域との連携について理解し述べるができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	学校安全に関する資料やデータに基づいて教育の役割や課題を考えることができる。
		(DP 4)	上記の DP2、DP3 を適切な語彙で表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育と社会・地域の連携と地域社会における学校の安全の課題に関して、自分なりにデータに基づいた議論が展開できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育と社会・地域の連携と地域社会における学校の安全の現状と課題について理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C：60～69	到達目標を達成している。		

不可：～59 到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100						100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	40					40
思考・判断・表現	(DP3)	40					40
	(DP4)	20					20
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	社会背景と学校教育（松浦）	パワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	【事前学習】憲法・学校教育法・教育基本法について調べ、自分なりに要点を整理しておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
2	子供の生活の変化とその課題（原田）	パワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	【事前学習】文部科学省のホームページを参照し、子供の生活の変化について調べておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
3	日本における教育政策の動向（原田）	パワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	【事前学習】文部科学省のホームページにある、第3期教育振興基本計画（概要）を読んでおく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
4	諸外国の教育事情（松浦）	パワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	【事前学習】OECD生徒の学習到達度調査を読み、海外と日本の比較についてまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
5	学校・地域と連携①（連携の意義とその方法）（松浦）	パワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	【事前学習】「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」の概要を読み自分なりに要点を整理する。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
6	学校・地域と連携②（現状と取組事例）（松浦・原田・梶原）	実例を中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	【事前学習】「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」の概要を読み、課題についてまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。

7	学校安全への対応①(学校保健安全法と危機管理) (梶原)	パワーポイント使用・解説(講義形式) グループワーク	【事前学習】学校保健安全法について調べ、自分なりに要点を整理しておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
8	学校安全への対応②(安全上の課題と取組事例) (松浦・原田・梶原)	実例を中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	【事前学習】文部科学省のホームページにある、「第2次学校安全の推進に関する計画の概要」を読み、要点を整理しておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
備考			

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク	○	○	○	○	○		○										
その他( )																	
内容	グループワークを行う。																

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育課程編成論			単位	2
科目名（英語）	curriculum organization			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護一種		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	樋口善之				
授業概要	教育及び学校の歴史的変遷や法制度を含め、学習指導要領を基準として編成される教育課程について学ぶ。あわせてカリキュラム・マネジメントについて解説し、その意義を理解する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	教職を希望していること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考図書 ・教材等	『学び合い』で始めるカリキュラム・マネジメント(東洋館出版社, ISBN;9784491033396) 問いからはじめる教育学(有斐閣, ISBN;9784641150140) 「資質・能力」と学びのメカニズム(東洋館出版社, ISBN;9784491033631) 小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年7月 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年 文部科学省)				
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解している。 各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	資料やデータに基づいて教育課程の役割や課題を考えることができる。
		(DP4)	○上記のDP2、DP3を適切な語彙で表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

この授業では、教育課程の編成について、歴史的な位置づけ、法規など背景について解説し、学習指導要領とはなにか、教育課程とは何かについて理解を深めることを目指す。あわせて、現代的な教育課題であるカリキュラム・マネジメントについて学ぶ

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史や社会制度のなかで教育課程の役割や機能を理解している。</li> <li>・ 学習指導要領の性格及び位置づけ並びに教育課程編成の目的と方法を理解している。</li> <li>・ カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。</li> </ul>	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
教育課程の編成について、歴史的な位置づけ、法規など背景について深く理解し、学習指導要領とはなにか、カリキュラム・マネジメントとは何かについて明確に説明することができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
教育課程の編成について、歴史的な位置づけ、法規など背景について理解し、学習指導要領とはなにか、カリキュラム・マネジメントとは何かについて説明することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
教育課程の編成について、歴史的な位置づけ、法規など背景について相応に理解し、学習指導要領とはなにか、カリキュラム・マネジメントとは何かについて大まかな説明することができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
教育課程の編成について、歴史的な位置づけ、法規など背景について相応に理解し、学習指導要領とはなにか、カリキュラム・マネジメントとは何かについてある程度説明することができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
教育課程の編成について、歴史的な位置づけ、法規など背景について理解できておらず、学習指導要領とはなにか、カリキュラム・マネジメントとは何かについて説明することができない。	

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50			20		30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30					30
思考・判断・表現	(DP3)	10		10		15	35
	(DP4)	10		10		15	35
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	その他については、授業への参加態度やディスカッション等における発言を含める。						

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回)	【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	シラバスの確認	
2	近代国家における公教育制度 ①	講義	配付資料の確認	
3	近代国家における公教育制度 ②	講義	配付資料の確認	
4	教育課程と学習指導要領①	講義	配付資料の確認	
5	教育課程と学習指導要領②	講義	配付資料の確認	
6	中間まとめ	発表・質疑	これまでの振り返り	
7	単元計画・指導計画とカリキュラム・マネジメント①	講義	配付資料の確認	
8	単元計画・指導計画とカリキュラム・マネジメント②	講義	配付資料の確認	
9	単元計画・指導計画とカリキュラム・マネジメント③	講義	配付資料の確認	
10	授業研究と教育実践①	講義	配付資料の確認	
11	授業研究と教育実践②	講義	配付資料の確認	
12	授業研究と教育実践③	講義	配付資料の確認	
13	保健教育における「学び合い」 ①	講義・ディスカッション	配付資料の確認	
14	保健教育における「学び合い」 ②	講義・ディスカッション	配付資料の確認	
15	まとめ	講義・質疑	これまでの振り返り	
備考				

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習															○	○	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク															○	○	
その他 ( )																	
内容			グループ・ディスカッションを行い、検討結果を発表する														

## I. 科目情報

科目名（日本語）	【人社】 道徳教育		単位	【人社】 2 単位
科目名（英語）	Moral Education		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	【人社】 3 年	開講時期	前期集中	
担当教員	堺正之			
授業概要	教員免許状の取得にかかわる教職科目である。「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」のうち1回～8回は「道徳の理論」を、9回～15回は「道徳の指導法」の事項を扱う。本授業科目では、道徳教育を支える基礎理論を学び、学校における道徳教育の目標、内容、児童生徒の道徳性を育成するための指導計画、道徳科の指導方法について理解を深める。また児童生徒の道徳性の育成につながる体験活動の意義についても学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	上地完治編『道徳教育の理論と実践』（アクティベート教育学9）ミネルヴァ書房、2020年（刊行予定） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版、20018年 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房、2018年			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また、授業後の質問・相談にも応じる。			

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	道徳教育に関する歴史的、社会的、心理学的アプローチを理解し、その基本的な考え方や概念について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	学校における道徳教育の目標・内容論、計画論、授業論、実践指導論を理解し、指導案の作成に生かすことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
道徳教育の基礎理論についての知識に基づき、学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容を理解するとともに、道徳教育の計画の意義について正確に説明することができる。 道徳科の指導過程や指導方法を理解して学習指導案を作成するとともに、学級における具体的な指導計画を構想することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。	
(1) 道德教育の基礎理論についての知識を有している。 (2) 学校の教育課程における道德の位置づけと道德教育の目標・内容を理解している。 (3) 道德教育の計画の意義を理解し、これを説明することができる。 (4) 道德科の指導過程や指導方法に関する基本的事項を理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。 (5) 将来、担任教師として学級における道德教育に取り組もうとする意欲を有している。	
成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	40				
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	道德教育の動向／道德と道德教育	講義	
2	日本における道德教育の歩み	講義	テキスト第1章を読む
3	子どもの発達と道德教育（1） －社会化論－	質疑応答、講義	テキスト第3章を読む
4	子どもの発達と道德教育（2） －道德性発達論－	質疑応答、講義	テキスト第3章を読む

5	学校における道德教育の意義と目標	質疑応答、講義、授業内レポート	テキスト第2章を読む
6	道德教育の指導体制と指導計画	質疑応答、講義	テキスト第12章を読む
7	道德科の目標と内容	質疑応答、講義	テキスト第2章を読む
8	道德科の教材と現代社会の課題	質疑応答、講義	テキスト第8章および第15章を読む
9	道德科の指導とその実際－指導過程と発問－	質疑応答、講義	テキスト第5章および第6章を読む
10	指導案の作成Ⅰ－教材の提示、教材分析－	質疑応答、講義、授業内レポート	テキスト第7章を読む
11	道德教育における評価	質疑応答、講義	テキスト第10章および第11章を読む
12	さまざまな道德授業論	質疑応答、講義	テキスト第9章を読む
13	体験的活動と道德教育	質疑応答、講義	テキスト第12章を読む
14	指導案の作成Ⅱ－指導案の作成作業－	質疑応答、講義	テキスト第4章および第5章を読む
15	指導案の作成Ⅲ－完成と提出－	質疑応答、講義、授業内レポート	作成した指導案にもとづくシミュレーションをおこなう
備考			

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○				○		○					○	○	
その他（ ）																	
内容	子どもの道德性発達に関するビデオ教材について意見交換する。また、現代的課題を取り上げた教材についての分析、指導案の作成にあたり、少人数のグループで発表、検討をおこなう。																

## I. 科目情報

科目名（日本語）	【看護】 道徳教育 A			単位	【看護】 1 単位
科目名（英語）	Moral Education A			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養一種		
標準履修年次	【看護】 2 年	開講時期	前期集中		
担当教員	堺正之				
授業概要	教員免許状の取得にかかわる教職科目である。「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」のうち「道徳の理論」の事項を扱う。本授業科目では、道徳教育を支える基礎理論を学び、学校における道徳教育の目標、内容、児童生徒の道徳性を育成するための指導計画、道徳科の意義について理解を深める。また現代的な課題を取り上げた教材についても学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	上地完治編『道徳教育の理論と実践』（アクティベート教育学 9）ミネルヴァ書房、2020 年（刊行予定） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版、2018 年 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房、2018 年				
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	コメントカードで受け付ける。また、授業後の質問・相談にも応じる。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	道徳教育に関する歴史的、社会的、心理学的アプローチを理解し、その基本的な考え方や概念について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	学校における道徳教育の目標・内容論、計画論、授業論を理解し、教材の解釈に生かすことができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
【看護】 道徳教育の基礎理論についての知識に基づき、学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容を理解するとともに、道徳教育の計画の意義について正確に説明することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

- (1) 道徳教育の基礎理論についての知識を有している。  
 (2) 学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容を理解している。  
 (3) 道徳教育の計画の意義を理解し、これを説明することができる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	40				
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		○	○			
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	道徳教育の動向／道徳と道徳教育	講義	
2	日本における道徳教育の歩み	講義	テキスト第1章を読む
3	子どもの発達と道徳教育（1） －社会化論－	質疑応答、講義	テキスト第3章を読む
4	子どもの発達と道徳教育（2） －道徳性発達論－	質疑応答、講義	テキスト第3章を読む
5	学校における道徳教育の意義と目標	質疑応答、講義、授業内レポート	テキスト第2章を読む
6	道徳教育の指導体制と指導計画	質疑応答、講義	テキスト第12章を読む

7	道徳科の目標と内容	質疑応答、講義	テキスト第2章を読む
8	道徳科の教材と現代社会の課題	質疑応答、講義	テキスト第8章および第15章を読む
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク						○				○							
その他（ ）																	
内容			子どもの道徳性発達に関するビデオ教材について意見交換する。また、現代的課題を取り上げた教材について分析し、少人数のグループでの発表、検討をおこなう。														

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育社会学			単位	2
科目名（英語）	Educational Sociology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	3年	開講時期	前期集中		
担当教員	白坂正太				
授業概要	現代社会が抱える教育課題を捉えるために、学校教育の社会的・制度的事項を社会学的視点から検討していく。各学校段階の文化的背景を読み解きながら、学校をめぐる諸課題を構造的に明らかにしていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	グループワークやディスカッションを行うので、積極的に議論ができること。 ノートPCを持参すること。				
テキスト	初回に適宜紹介し、資料を配布します。				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業	なし			授業中の 撮影	×
学習相談 ・助言体制	授業後もしくは、電子メールにて受け付けます。shouta.shirasaka@gmail.com まで また、授業後のレポートの中での質問も受け付けます。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)		
		(DP2)		
	思考・判断・表現	(DP3)	多角的に教育に関する事象を捉えることができる。	
		(DP4)	自身の考えの根拠を社会学的視点から説明できる。	
	関心・意欲・態度	(DP5)		
		(DP6)		
	技能	(DP7)		
		(DP8)		
		(DP9)		
		(DP10)	現代教育の構造的課題を社会学的視点から見いだすことができる。	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
学校教育の社会的・制度的事項において、社会学的視点を活用し、構造的な課題を見つけることができる。				
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
学校教育の社会的・制度的事項において、社会学的視点を活用し、教育の課題を見つけることができる。				
成績評価の基準				
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。				
A：80～89 履修目標を達成している。				
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。				

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合		30	50			20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		○				
	(DP4)		○				
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○		○	
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義・WS (ワークショップ)	シラバスの熟読
2	社会の中で生きるとは—学校制度と社会化—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
3	家族と社会化—家庭教育の構造と役割—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
4	学校の成立背景と社会的意義—公教育の理念と法規を中心に—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
5	子どもの遊び環境の変容—遊び場の安全と学校・地域の連携—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
6	社会的存在としての子ども—幼保一元化の政策動向をふまえて—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
7	学級構造の課題—学級における教師の役割—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
8	学校のリスクマネジメント—学校の社会的な位置づけと責任—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
9	中等教育の二面性—制度的側面からみる統合と分化—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習
10	高等教育の機能分化—職業教育の多様化に着目して—	講義・WS (ワークショップ)	前回の復習

11	学校教育とジェンダー—教育制度からみる社会的性差—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
12	教育行政と学校の機能—地域振興に着目して—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
13	情報化社会と教育—学校の危機管理—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
14	学修成果における質保証—諸外国の取り組み—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
15	【総論】教育の社会学的検討—学校の社会的役割の再考—	講義・WS（ワークショップ）	前回の復習
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育方法論	単位	1 単位
科目名（英語）	Education Methodology	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭
標準履修年次	看護 2 年	開講時期	後期
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子		
授業概要	教育とは何か、教師とは何か。根本的な問いに取り組みつつ、教えること、学ぶことに関する方法を議論する。現在のわが国の学校における授業方法について具体例とそれぞれの経験をもとに検討する。教材の活用方法についても検討する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	教員養成課程・コースにあるものが望ましい。		
テキスト			
参考図書・教材等	参考文献：授業の中で適宜紹介する		
実務経験を生かした授業	<p>国語の小学校教諭として授業の研究に取り組み、また指導主事として現場の教員に対して指導的立場で関わられた経験のある現役の教員を特別講師として招聘し、学生に教育方法の指導において具体的かつ確かな視点を解説していただく。</p> <p>長年、小学校教諭として知的能力を生かしてスポーツ活動に取り組むことができる児童の育成をし、指導内容の定着をはかるための評価活動の工夫の研究を行ってきた教員を特別講師として招聘し、学生に対して教材研究とは何かということを実践的な視点で解説していただく。</p>	授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。		

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	講義で取り上げる教育方法に関する基本事項について理解し述べるができる。
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
新しい教育方法について自らその実例を調べた上で今後の展開方法を述べるができる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
近代教育におけるこれまでの教育方法と新しい教育方法について理解することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP1)	100						100
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	教育とは何か, (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教育」「カリキュラム」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
2	教師と教員の違いはどこにある (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教師」「教員」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
3	教えることと学ぶこと (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教える」「学ぶ」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
4	カリキュラムとは何か (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「評価」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
5	アクティブラーニング (原田)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「アクティブラーニング」について調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
6	学習意欲を引き出す工夫 (松浦・原田・梶原)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「学習意欲」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
7	子どもの発達段階に合わせた授業 (梶原)	講義、グループディスカッション	【事前学習】文部科学省「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」をよみ要点をまとめておく。

			【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
8	教材研究とは何か (松浦・原田・梶原)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教材研究」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○									
その他( )																	
内容																	

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育方法論	単位	2単位
科目名（英語）	Education Methodology	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	人社3年	開講時期	後期
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子		
授業概要	教育とは何か、教師とは何か。根本的な問いに取り組みつつ、教えること、学ぶことに関する方法を議論する。現在のわが国の学校における授業方法について具体例とそれぞれの経験をもとに検討する。教材の活用方法についても検討する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	教員養成課程・コースにあるものが望ましい。		
テキスト			
参考図書・教材等	参考文献：授業の中で適宜紹介する		
実務経験を生かした授業	<p>国語の小学校教諭として授業の研究に取り組み、また指導主事として現場の教員に対して指導的立場で関わられた経験のある現役の教員を特別講師として招聘し、学生に教育方法の指導において具体的かつ確かな視点を解説していただく。</p> <p>長年、小学校教諭として知的能力を生かしてスポーツ活動に取り組むことができる児童の育成をし、指導内容の定着をはかるための評価活動の工夫の研究を行ってきた教員を特別講師として招聘し、学生に対して教材研究とは何かということを実践的な視点で解説していただく。</p>	授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。		

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	講義で取り上げる教育方法に関する基本事項について理解し述べるができる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
新しい教育方法について自らその実例を調べた上で今後の展開方法を述べるができる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
近代教育におけるこれまでの教育方法と新しい教育方法について理解することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP1)	100						100
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	教育とは何か, (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教育」「カリキュラム」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
2	教師と教員の違いはどこにある (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教師」「教員」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
3	教えることと学ぶこと (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教える」「学ぶ」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
4	カリキュラムとは何か (松浦)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「評価」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
5	アクティブラーニング (原田)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「アクティブラーニング」について調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
6	学習意欲を引き出す工夫 (松浦・原田・梶原)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「学習意欲」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
7	教育方法実践見学 (伊田小学校) (梶原)	学外演習、ディスカッション	【事前学習】事前課題(見学の観点)を提示する。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。

			する。
8	子どもの発達段階に合わせた授業 (梶原)	講義、グループディスカッション	【事前学習】文部科学省「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」をよみ要点をまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
9	教材研究とは何か (松浦・原田・梶原)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「教材研究」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
10	ICT 活用 (原田)	講義、演習	【事前学習】「ICT」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
11	少人数単位の授業方法 (原田)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「少人数単位の授業」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
12	個別教育計画 (原田)	講義、グループディスカッション	【事前学習】「個別教育計画」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
13	授業が成り立たない要因と対処 (原田)	講義、グループディスカッション	【事前学習】文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について参照し、要点をまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
14	教師との対話による授業をめざす	講義、グループワーク	【事前学習】事前にビデオ視聴しておき、ポイントを反転授業のポイントをまとめておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
15	まとめ	講義、グループディスカッション	【事前学習】今までの講義内容を振り返り、質問や疑問を整理しておく。 【事後学習】講義終了後に提出課題を提示する。
備考			

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他( )																			
内容																			

## I. 科目情報

科目名（日本語）	生徒指導論（人間社会学部）		単位	2
科目名（英語）	Student Guidance		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	4年	開講時期	後期	
担当教員	農中 茂徳			
授業概要	校務分掌の一つとして位置づけられている生徒指導の意義や原理を理解し、組織的で持続的な取り組みの具体的な事例を認識する。また、自尊感情を高めるべき当事者としての自覚を醸成し、他者に相談することの大切さや関係機関と連携していくことの必要性と柔軟性が求められることについて学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト	『生徒指導提要』（文部科学省）、『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考図書・教材等	適宜、資料を配付する。拙稿『だけどだいじょうぶ』（石風社）			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	随時、相談に応じる。小レポート等の内容を参考に助言、応答を行う。			

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	校務分掌や生徒指導の概略について説明できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	組織的で主体的な生徒指導というものの見通しが立てられるようになる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	「組織的な生徒指導」「連携した取り組み」といった表現の具体像が描けるようになる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
社会規範、協働、個別の支援などといった生徒指導に関する用語を列記し説明できるようになる。			
成績評価の基準			
S：90～100		履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。	
A：80～89		履修目標を達成している。	
B：70～79		到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。	

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	30	30			10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○		○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○	○	○		○	
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	生徒指導の意義と原理	オリエンテーション	参考図書、資料について
2	いじめ、「しない」と「なくす」の違い	「提要」について、ワークショップ	言語と関係性、小レポート
3	教育課程、校務分掌と生徒指導	「提要」と講義	組織的であること
4	過去の常識と出来事	16 ミリ映画の視聴、質疑	映画の解説、小レポート
5	「勤」の世界	「提要」と講義	社会的規範
6	「勤」の現在と未来	「提要」と講義	「勤」の具体的事例、小レポート
7	生徒指導・教育相談の体制、言動からの気づき	講義、ワークショップ	生徒の問題行動
8	基礎的な生活習慣の確立と規範意識の醸成、非行と少年院	「提要」と講義	連携と協働
9	集団指導・個別指導、生徒と保護者の地域所属	「提要」と講義、好きな本	地域所属、小レポート
10	学びの再構成	「提要」と講義、体験談	予断と偏見、ハラスメント
11	存在感を育む生徒指導 「市民」であることへの敬意	講義、命の歌	旧産地の問題
12	校則、懲戒、体罰 (停学と退学)、進路と生徒指導	「提要」と講義	ワークショップ
13	生徒指導の今日的な課題 過去との向き合い	「提要」と講義	けんか、ヘイトスピーチ
14	生徒指導と人生のナラティブ	講義、「私」を物語る	小レポート

15	生徒指導と土地の歴史	フィールドワーク	旧産炭地の様相
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

## I. 科目情報

科目名（日本語）	生徒指導論（看護学部）			単位	2
科目名（英語）	Student Guidance			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養一種免許		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	大津 修郎				
授業概要	生徒指導の意義や役割について理解するとともに、グループ討議等により、専門性を生かした生徒指導の対策、解決が図れる内容とする。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。				
テキスト					
参考図書・教材等	生徒指導提要（文部科学省）				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	授業の前後に実施				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生徒指導と養護教諭の関わりについて理解し、知識を活用することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	生徒指導の中で指導方法や場面を学び、実践することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
生徒指導の意義や役割の理解、生徒、父兄等との対応について。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
養護教諭としての役割を理解するとともに、学校現場における生徒、父兄等との関わり、対応について学ぶ			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C：60～69	到達目標を達成している。		

不可：～59 到達目標を達成できていない。

### Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合			50	20			30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○			○	
備考								

### Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション（目的、概要等） 生徒指導を学ぶ前に	講義	授業の概要、シラバスについて 自分の性格、長所、短所について
2	教育について（学校教育、社会教育、家庭教育）	講義	各教育の役割
3	教師の役割、教育の役割	講義	養護を目指したのは？
4	生徒指導とは（意義と役割）	講義	生活指導で大切なこと
5	生徒指導の歴史・小、中、高校の生徒指導の現状	講義	在籍した学校の生徒指導
6	問題行動 ① いじめ、自殺、不登校等	講義	問題行動 — 体験
7	問題行動 ② 校内・家庭内暴力、非行、薬物乱用	講義	問題行動 — 対応
8	問題行動 ③ 遅刻、私語、居眠り、非行	講義	言葉のかけ方
9	体罰と懲罰	講義	体罰による影響
10	特別活動	講義	特別活動の内容
11	道徳教育	講義	道徳教育の必要性
12	生活習慣（家庭、食、安全）	講義	自分の食生活
13	教育相談（悩み、トラブル、学習等）	講義	相談室の活用方法
14	カウンセリング	講義	小、中、高校の現状把握

15	まとめ	講義	概要のまとめ
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教師論		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Teaching		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	高等学校（公民）、中学校（社会）	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	藤澤健一			
授業概要	教職の意義を理解し、授業づくりや生徒指導など学校教育において教員に求められる資質と能力を修得する。教職への意欲を高め、自己の特性と適性を判断する。本講義では、教師のあり方を実践的、反省的に学ぶ。くわえて現在の教師が置かれている社会的な環境について、事例に即して学ぶ。教師の職務について、身近な内容に即して考察することで、教師の卵としての自覚と素養、使命感を身につける。くわえて授業技術の向上をめざし、人前で話す体験を重ねる。本講義は、教職課程の導入的な講義の一環であり、受講者には主体的な参画が求められる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	中・社、高・公は必修。必要条件是「教育学概論 B」の単位を修得済みであること。教員免許状取得への意志と計画性をもつこと。			
テキスト	文部科学省『魅力ある教員を求めて』			
参考図書・教材等	学習指導要領（2017年度改訂）、朝比奈なを『ルポ教育困難校』朝日新聞出版、2019、橋本紘一『専門職の質保証 初期研修をめぐるポリティクス』玉川大学出版部、2019			
実務経験を生かした授業			授業中	の撮影
学習相談・助言体制	レスポンスカードあるいはメールで受け付ける。			

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	教師にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	教師としての使命感を身につける。
	技能	(DP 7)	授業展開の力を身につける。
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教職の意義を理解し授業づくりや生徒指導など学校教育において教員に求められる資質能力を基礎的に修得する			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教師教育や教員養成・採用・研修に係る4基礎的な用語を理解できる。			
成績評価の基準			
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A: 80~89	履修目標を達成している。		
B: 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60		20		20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)						○	
技能	(DP7)				○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	オリエンテーション (教師とは、社会的意義)	講義	シラバスの精読
2	教員養成制度	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
3	採用制度 (採用試験の仕組み)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
4	研修制度 (免許更新制度、職能成長)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
5	服務義務、身分上の保障	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
6	学校組織 (職位と校務分掌)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
7	学校組織 (チーム学校)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
8	教師としての役割と資質能力 (生徒指導、不登校、いじめ)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
9	教師としての役割と資質能力 (話し方、対人関係のつくりかた)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
10	教師としての役割と資質能力 (道徳教育、総合的な学習の時間)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
11	教師としての役割と資質能力 (専門職との連携)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
12	教師としての役割と資質能力 (地域社会との連携)	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備

13	教師の技法（授業における導入の方法）	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
14	教師の技法（授業における展開の事例）	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
15	教師の技法（主体的で対話的な深い学び）	講義とグループワーク	テキスト、資料の精読、レポートなどの準備
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																	
内容																	

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育課程論			単位	2
科目名（英語）	School Curriculum Development			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	山田 明				
授業概要	教育課程を理解するうえで必要な概念、例えば、学習指導要領、教育評価、授業研究、カリキュラム・マネジメント等を整理しつつ、新学習指導要領の理念や学力問題などの今日的な課題を踏まえ、学生のプレゼンテーションや討論も活用しながら生きた授業を展開する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	教育課程を編成する基礎的知識及びスキルを身につけるため、現代社会における喫緊の教育課題を意識すること。関連書籍や日々の新聞・テレビ等のメディア等に興味関心を持つこと。				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
参考図書・教材等	中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）。 鈴木敏正、降旗信一（編著）『教育の課程と方法～持続的で包括的な未来のために』学文社、2017。 田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	授業の前後に質問に応じる。またメール（勤務先の九州共立大学研究室宛）でも受け付け、回答する。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	学生が教育課程の概念、実践的活用に関する専門的な知識を修得することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	学生が教育課程を適切に構成するスキルを修得できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
新学習指導要領の理念や学力問題などの今日的課題を踏まえ、教育課程編成の基本的知識とスキルを身につける。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育課程を検討するうえで必要な概念、学習指導要領、教育評価、授業研究、カリキュラム・マネジメント等の基本的事項を理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			20	60	20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		○	○	○			
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション～学校教育における教育課程の意義～	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「教育課程」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
2	教育課程とカリキュラム	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「カリキュラム」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
3	教育課程の編成方法（概論）	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「教育課程の編成」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
4	学習指導要領の変遷と教育課程の編成	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「学習指導要領の変遷」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
5	学力調査（国内外）と教育課程の編成	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「学力調査（国内外）の事例」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
6	学力論の変遷と教育課程の編成	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「学力論の変遷」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
7	授業研究と教育課程の編成	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「授業研究」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
8	地域の実態を踏まえた教育課程の編成の在り方	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「地域の実態と教育課程」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
9	学校の特色づくりと教育課程編成の在り方	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「学校の特色づくりと教育課程」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
10	総合的な学習の時間と教育課程の編成の在り方	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「総合的な学習の時間」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
11	教材開発と教育課程の編成の原理	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「教材開発と教育課程」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。

12	教育評価とカリキュラム評価	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「教育評価、カリキュラム評価」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
13	授業実践（授業研究を含む）を支えるカリキュラム・マネジメント	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「カリキュラム・マネジメント」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
14	諸外国のカリキュラム	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	「諸外国のカリキュラム」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。
15	総括	講義、総括討議、レポート課題の説明	本講義についてノート等を活用して振り返り（事前）、まとめの講義、総括討議を基に深める（事後）。
備考			

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																	
内容	毎回の授業において、講義内容に関わるグループ討論を実施する。																

## I. 科目情報

科目名（日本語）	社会科教育法 I		単位	2
科目名（英語）	Social Studies I		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	3年次	開講時期	前期	
担当教員	下地貴樹			
授業概要	学習指導要領に沿いながら、社会科教育の全体像を把握する。具体的な授業を構成するための内容ならびに方法論について学ぶ。とくに授業づくりに不可欠な内容の取り扱いや評価の規準、教材研究に関する部分を解説する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年告示）』			
参考図書・教材等	二谷貞夫・和井田清司編 『中等社会科の理論と実践』学文社、2007 他講義内で紹介する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する			

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会科教員として地理・歴史・公民分野の課題や性格について理解することができる
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	指導案作成や授業実践のための、専門分野のスキルを身につけることができる
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
地理・歴史・公民的分野それぞれにおいて必要となる背景事情や授業づくりのための工夫を学ぶことで、単独で授業を構成できるようになる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学習指導要領、および生徒・教材に対する理解をもとに、授業実践を想定した学習指導案を作ることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20		30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○	○			
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			○			
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション、社会科教育法Ⅰの目的・進め方・準備など	講義	学習指導要領解説を読む
2	社会科教育の問題状況 指導上の留意点	質疑応答、講義	レポート課題
3	主体的・対話的で深い学び(社会的実践力を培う社会科)	質疑応答、講義	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
4	地理的分野の目標とその取り扱い	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
5	歴史的分野の目標と内容とその取り扱い	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
6	公民的分野の目標と内容とその取り扱い	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
7	社会科の授業づくり 教材研究	質疑応答、講義、グループワーク	教材に関する資料を読む
8	社会科の授業づくり 発展的な学習 グループワークについて	質疑応答、講義、グループワーク	グループワーク・小集団学習などに関する資料を読む、レポート作成
9	社会科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について	質疑応答、講義、グループワーク	評価に関する資料を読む
10	社会科の授業づくり 「地図」「地誌」について	質疑応答、講義、グループワーク	地誌作成に関する資料を読む
11	社会科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む	質疑応答、講義・実践事例検討、グループワーク	指導案作りに関する資料を読む 指導案作成
12	単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点	質疑応答、講義	指導案作成
13	単元計画と学習指導案2 模擬	質疑応答、講義、模擬授業	指導案作成

	授業		
14	社会科授業づくりの構想 模擬授業	質疑応答、講義、模擬授業	指導案作成
15	社会科教師に求められる資質・能力	質疑応答、講義	文部科学省答申を読む
備考	模擬授業の実施の詳細は講義で説明する		

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他（ ）																		
内容				資料発表や模擬授業の実践だけではなく、評価者としても参加してもらおう。ロールプレイとして、積極的に参加してもらい、批判的思考や積極的助言についても行う。														

## I. 科目情報

科目名（日本語）	社会科教育法 II		単位	2
科目名（英語）	Social Studies II		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	3年次	開講時期	後期	
担当教員	下地貴樹			
授業概要	中学校社会科にかかわる学習指導理論を理解し、情報機器や教材の活用をふくめた授業実践力を身につける。地理・歴史・公民の各領域において模擬授業を一部に組み入れ、授業設計の方法を学び指導技術の向上をはかる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年告示）』			
参考図書・教材等	二谷貞夫・和井田清司編 『中等社会科の理論と実践』学文社、2007 他講義内で紹介する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する			

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	社会科教育に関する指導案作成方法の基本を理解することができる。 社会科教育の教材論や授業方法論の基本について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	社会科の指導案作成とこれに基づく模擬授業を通して、社会科授業実践の基礎力・教員として授業を行ううえでの観点を獲得することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
中学校社会科にかかわる学習指導理論を理解し、教具・教材の活用をふくめた授業実践力を身につける。地理・歴史・公民の各分野において模擬授業を一部に組み入れ、授業設計の方法を学び指導技術を身につけることができる			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業準備における生徒観・教材観について重視し、単元観を含めた実践ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40			60			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)				○			
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○			○			
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	社会科教育法Ⅱの目的・進め方・準備に関する説明	講義	指導案を準備する
2	社会科指導案の作成と授業づくり1 実践研究の動向	学習指導案の作成、情報機器の利用	教材・方法・実施形態について考える
3	社会科指導案の作成と授業づくり2 (生徒観・単元観・教材観)	演習	〃
4	社会科指導案の作成と授業づくり3 (展開を具体的に書く)	演習	〃
5	社会科指導案の作成と授業づくり4 (教材・教具等の準備)	演習	〃
6	社会科指導案の作成と授業づくり5 (教材・教具等の準備)	演習	〃
7	社会科指導案の作成と授業づくり6 (模擬授業の総合的な準備)	演習	〃
8	社会科指導案の作成と授業づくり7 (模擬授業のリハーサル)	演習	教材・教具等の作成・確認、指導案の準備
9	社会科模擬授業1(第1グループの模擬授業)	演習	指導案の準備、教材・教具等の準備
10	社会科模擬授業2(第2グループの模擬授業)	演習	〃
11	社会科模擬授業3(第3グループの模擬授業)	演習	〃
12	社会科模擬授業4(第4グループの模擬授業)	演習	〃
13	社会科模擬授業5(第5グループの模擬授業)	演習	〃

14	社会科授業省察会(体験の共有化と省察)	演習	模擬授業の振り返り、レポート
15	講義のまとめ	講義	レポート
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他( )																		
内容				資料発表や模擬授業の実践だけではなく、評価者としても参加してもらおう。ロールプレイとして、積極的に参加してもらい、批判的思考や積極的助言についても行う。														

## I. 科目情報

科目名（日本語）	公民科教育法 I			単位	2
科目名（英語）	Education for Citizenship I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種		
標準履修年次	3年次	開講時期	前期		
担当教員	下地貴樹				
授業概要	<p>現在の公民科の位置づけについて理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会（および公共）・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。</p> <p>公民科科目の目的・意義・方法を歴史的な流れから理解し、社会との関連を含めて考えを深め、実際に学習指導要領に則り、教室での実践を前提に授業を作成し発表・評価する。</p> <p>学習指導要領を分析・検討し、生徒が学ぶべき内容の把握と、具体的な学習指導案づくりを行う。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』『中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年告示）』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』				
参考図書・教材等	二谷貞夫・和井田清司編 『中等社会科の理論と実践』学文社、2007 他講義内で紹介する				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人間・倫理・社会に関する専門的知識について理解できる。 公民科目のみではなく、関連するさまざまな知識や現代時事に関する知識を有している。
	思考・判断・表現	(DP3)	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。 人間・社会の諸問題に関する資料を収集・考察し、結論を見いだすことができる。
		(DP4)	専門的知識に基づいて自らの考えを適切に他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。 人間・社会に関する諸問題を主体的かつ意欲的に探求することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	人間・社会の諸問題に対する検討手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

中等社会科にかかわる学習指導理論を理解し、教具・教材の活用をふくめた授業実践力を身につける。公民における各科目において学習指導要領におけるねらいと取り扱いに留意した、授業設計の方法を学び、学習指導案を作成することができる。

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
------	--

中等社会科の課題と現状について理解し、望まれる教師像を実践しようとすることができる。

#### 成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20		30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○			○		
思考・判断・表現	(DP3)	○					
	(DP4)		○				
関心・意欲・態度	(DP5)		○		○		
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	○			○		
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	公民科教育の全体像の理解（「公民」の新設）、指導上の留意点	質疑応答、講義	レポート課題
2	公民科教育の歴史的あゆみ、学習評価	質疑応答、講義	学習指導要領解説を読む
3	公民科教育の手法（情報機器及び	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む

	教材の活用)		
4	現代社会の目標と内容① 私たちの生きる社会	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
5	現代社会の目標と内容② 現代社会と人間としての在り方生き方	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
6	現代社会の目標と内容③ 共に生きる社会を目指して	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
7	倫理の目標と内容① 現代に生きる自己の課題	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
8	倫理の目標と内容② 人間としての在り方生き方	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
9	倫理の目標と内容③ 現代と倫理	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
10	政治・経済の目標と内容① 現代の政治	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
11	政治・経済の目標と内容② 現代の経済	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、レジュメ作成
12	政治・経済の目標と内容③ 現代社会の諸課題	質疑応答、講義、グループワーク	指導案作成
13	学習指導要領改訂と「公共」への対応 発展的学習	質疑応答、講義、模擬授業準備	指導案作成
14	単元計画と学習指導案	質疑応答、講義	文部科学省答申を読む
15	公民科教育に関するまとめ、発表	講義	レポート
備考			

## V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他( )																		
内容				指導要領解説に基づき、各々の学校教育における実践を振り返る。参考と改善の提案を行い、よりよい授業の構想を行うことができる														

## I. 科目情報

科目名（日本語）	公民科教育法 II		単位	2
科目名（英語）	Education for Citizenship II		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	中一種、高一種	
標準履修年次	3年次	開講時期	後期	
担当教員	下地貴樹			
授業概要	模擬授業の作成にあたり、グループワークやケーススタディに取り組む。アクティブ・ラーニングなど方法論を用いつつ、模擬授業を実践する。あわせて、公民科教育の実践に必要な教科用図書や評価、学校教育における指導者の資質についても学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』『中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年告示）』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』			
参考図書・教材等	二谷貞夫・和井田清司編 『中等社会科の理論と実践』学文社、2007 他講義内で紹介する			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する			

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	人間・倫理・社会に関する専門的知識について理解できる。公民科目のみではなく、関連するさまざまな知識や現代時事に関する知識を有している。
	思考・判断・表現	(DP3)	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。人間・社会の諸問題に関する資料を収集・考察し、結論を見いだすことができる。
		(DP4)	専門的知識に基づいて自らの考えを適切に他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。人間・社会に関する諸問題を主体的かつ意欲的に探求することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	人間・社会の諸問題に対する検討手法を身につけている。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
中等社会科にかかわる学習指導理論を理解し、教具・教材の活用をふくめた授業実践力を身につける。公民における各科目の特徴や性格を理解したうえで、学習指導案を作成し、実践することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
公民科学習指導要領について理解し、指導観・生徒観・教材観に関する観点を持ち、授業実践をすることができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	20		40			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○			○			
思考・判断・表現	(DP3)	○						
	(DP4)		○					
関心・意欲・態度	(DP5)		○		○			
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	○			○			
備考		授業内レポートは、模擬授業への評価表や意見作成・助言・交換を含む						

### IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	公民科における授業の構成・指導上の工夫・方法論の検討	質疑応答、講義	レポート課題
2	教科用図書と公民科教育の学習評価・授業の設計、実践研究の動向	質疑応答、講義	学習指導要領解説を読む
3	学習指導要領の概要	質疑応答、講義、グループワーク	学習指導要領解説を読む、指導案作成、模擬授業用教材準備
4	模擬授業の準備① 調査・教材・指導案の作成	質疑応答、講義、教材研究	指導案作成、模擬授業用教材準備
5	模擬授業の準備② 模擬授業を行うための準備	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備
6	模擬授業① 現代社会 I：担当グ	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備

	ループによる模擬授業		
7	模擬授業② 現代社会Ⅱ:担当グループによる模擬授業	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備
8	模擬授業③ 倫理Ⅰ:担当グループによる模擬授業	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備
9	模擬授業④ 倫理Ⅱ:担当グループによる模擬授業	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備
10	模擬授業⑤ 政治・経済Ⅰ:担当グループによる模擬授業	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備
11	模擬授業⑥ 政治・経済Ⅱ:担当グループによる模擬授業	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備
12	模擬授業⑦ 政治・経済Ⅲ:担当グループによる模擬授業	質疑応答、模擬授業	指導案作成、模擬授業用教材準備
13	模擬授業からの示唆、フィードバック・意見交換	質疑応答、模擬授業	模擬授業評価シートの振り返り
14	授業改善、優れた実践の検討	質疑応答、講義、意見交換	参考資料を読む
15	公民科教育における指導者の資質(学習指導要領の目標と内容のふりかえり)	講義	レポート
備考			

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他( )																	
内容	模擬授業やその準備を通して、主体的に授業作りに取り組み、対話的に授業を振り返る時間のなかで批判的かつ今後の参考となるように、積極的に意見交換を行う。																

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教育心理学概論（教育・学校心理学）		単位	2
科目名（英語）	Introduction to Educational Psychology (Educational and School Psychology)		授業コード	
必修・選択	選択必修	関連資格	教員免許（中学校社会, 高校公民）	
標準履修年次	2	開講時期	後期	
担当教員	福田 恭 介			
授業概要	教育現場においては、子どもと教師だけでなく、親も関わりながら学校を動かしている。ここでは、発達、学習、算数・文章理解、動機づけをどのように支援していくか、知能・学力の評価、子ども社会、発達障害児への対応、不登校への対応などの問題について考えていく必要がある。教育心理学とは、教育現場で起こるさまざまな問題について心理学的知見に基づいて考えていく学問である。このような問題について考えることは、人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、教育と心理との関係について体験的に理解を深めることを目指す。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	心理学概論, 発達心理学 I を履修している方が望ましい。			
テキスト	①福田恭介（編）「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版 ¥2,860 ②市川伸一（著）「学ぶ意欲の心理学」 PHP 新書 ¥792			
参考図書・教材等	①森敏昭（著）「21世紀の教育心理学が目ざすもの」有斐閣（書齋の窓）eラーニングに保存 ②R・キャンベル（編）「認知障害者の心の風景」福村出版 ③大村彰道（編）「教育心理学Ⅰ－発達と学習指導の心理学」東京大学出版会			
実務経験を生かした授業			授業中 の撮影	
学習相談・助言体制	授業に対するコメント・質問は、授業開始時に配布される A5 用紙に記述することで行う。次回の授業で紹介されたコメントが、授業への参加度として加点される。その他の質問に対しては、時間が空いていれば受け付ける。			

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	図表や用語を、これまでの知識と関連づけて理解した上で説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	指定された文献や論文の内容を要約し、コメントを記述できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	授業内容について、これまでの教育経験と関連づけながら質問やコメントを記述できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
授業内容と自らの教育経験を結びつけ、指定された文献や論文の内容を手がかりにコメントを記述できる。			

成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業 コメント	授業外 レポート	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		40	20	40				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	◎						
思考・判断・表現	(DP3)			◎				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		◎					
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め 方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	心理学における教育心理学の位置づけの紹介		
2	「21世紀の教育心理学が目ざすもの（森敏明）」の紹介		
3	ピアジェの認知発達理論 ・ シェマの同化と調節による均衡化への過程 ・ 感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期	スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。	この授業では、規程に基づき、1回の授業に対し事前・事後で180分(3時間)の学習が求められる。そのため、その一部をレポートで補う。
4	発達障害 ・ 自閉スペクトラム症 ASD: Autism Spectrum Disorder	その内容は、eラーニングに保存している。	授業2回の後、eラーニングに保存された森敏昭（著）「21世紀の教育心理学が目ざすもの」有斐閣（書齋の窓）を読み、その後、5項目について、指定文字数で要約し、最後にコメントを200字程度で記述する。
5	・ 注意欠如多動症 AD/HD: Attention Deficit Hyperactivity Disorder ・ 学習症 LD: Learning Disorder		
6	発達障害児のためのペアレントトレーニングから教師のトレーニングへ	コメントカードを利用した質問に対しては翌週	
7	・ 子どもの親（保護者）のためのペアレントトレーニング		

	・ペアレントトレーニングの保育・教育現場への応用	の授業で回答する。	授業 3 回までに、福田恭介（編）「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版の中の「2. ペアレントトレーニングの実際」17-63 を指定の書式 2 頁以内で要約し、コメントを 200 字程度で記述する。	
8	学習のしくみ			
9	・条件づけ：レスポナント条件づけとオペラント条件づけ ・回避学習と観察学習 ・学習性無力感			
10	子どもの数量理解			
11	・子どもの足し算・引き算の考え方 ・小数・分数でのつまずき（加減算シエマでは解決できない） ・文章題の出現			
	子どもの動機づけ			
12	・外発的動機づけと内発的動機づけ ・内容関与動機と内容分離動機			
13	知的能力と学力			
14	・知能検査の成り立ちと、その測っているもの ・学力の評価			
15	不登校			授業 12 回までに、市川伸一（著）「学ぶ意欲の心理学」PHP 新書を指定の書式 2 頁以内で要約し、コメントを 200 字程度で記述する。
備考				授業 15 回の後、インターネットで不登校に関するいくつかのウェブサイトを検索し、（1）ブログなどに書かれた不登校に対する本人の気持ち、（2）ブログなどに書かれた親の気持ち、（3）ブログなどに書かれた教師の気持ち、3 つの立場から 2 頁以内に要約し、コメントを 200 字程度で記述する

#### V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				提示した課題について、近くの友だちと話し合う機会を設ける														

## I. 科目情報

科目名（日本語）	中学校教育実習事前事後指導			単位	1
科目名（英語）	Guidance for Junior High School Teaching Practice			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中学校（社会）		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期・前期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。教育実習を実施するための総合的な支援を目的とする。教育実習の意義と内容などについて実践的に修得する。模擬授業やプレゼンテーションを取り入れることで、教育実習に向けた準備を行う。くわえて、教育実習全体の振り返りを通じて、そこで得られた知識と技能、課題を共有化するための事後的支援を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	中・社は必修。履修条件は「教育学概論B」の単位を修得済みであることなど、委細は別途、説明する。				
テキスト					
参考図書・教材等	教育実習を考える会『新編 教育実習の常識—事例にもとづく必須66項』蒼丘書林、2000				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メールで受け付ける。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	学校教育実践にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	授業づくりに必要なコミュニケーション力を実践できるようになる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
学校教育実践にかかわる基礎的知識を理解したうえで、授業づくりに必要なコミュニケーション力が実践できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学校教育実践や授業づくりに必要な用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60		40			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)				○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	シラバスの精読
2	教育実習への抱負(授業づくり教科指導、総合的学習、NIE、特別活動)	演習	レジュメなどの準備
3	教育実習への抱負(生徒指導)	演習	レジュメなどの準備
4	実習校の調査研究(生徒、学校経営、校務分掌、特色ある教育活動)	演習	レジュメなどの準備
5			
6			
7			
8	教育実習の成果と反省	演習	レジュメなどの準備
9			
10			
11			
12			
13	教育実習報告会の準備	演習	レジュメなどの準備
14			
15	教育実習報告会	発表	報告準備

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容																			

## I. 科目情報

科目名（日本語）	中学校教育実習			単位	4
科目名（英語）	Teaching Practice at Junior High School			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	中学（社会）		
標準履修年次	4年	開講時期	前期・後期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。教育の実際を教師として体験することにより、学校教育に関する理解を実践的に深める。教職課程において修得した知識と技能を総合的に実践する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	『教育実習手帳』を配布する。藤村裕一『授業改善のための学習指導案』ジャムハウス				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メールで随時、受け付ける。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	学校教育における実践知を理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	教員として必要な総合的スキルを実践できるようになる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育者としての使命感と技法を身につけたうえで、その能力および適性を発揮し遵守すべき職務を実践できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育者としての職務内容を正確に理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							100	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)						○	
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						○	
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	原則として3週間、各教育実習校で実施。	実習	実習校で事前に実施されるオリエンテーションなどへの出席。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

## I. 科目情報

科目名（日本語）	高校教育実習事前事後指導			単位	1
科目名（英語）	Guidance for High School Teaching Practice			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	高校（公民）		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期・前期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。教育実習を実施するための総合的な支援を目的とする。教育実習の意義と内容などについて実践的に修得する。模擬授業やプレゼンテーションを取り入れることで、教育実習に向けた準備を行う。くわえて、教育実習全体の振り返りを通じて、そこで得られた知識と技能、課題を共有化するための事後的支援を行う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	高・公は必修。履修条件は「教育学概論B」の単位を修得済みであることなど、委細は別途、説明する。				
テキスト					
参考図書・教材等	教育実習を考える会『新編 教育実習の常識—事例にもとづく必須66項』蒼丘書林、2000				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メールで受け付ける。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	学校教育実践にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	授業づくりに必要なコミュニケーション力を実践できるようになる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
学校教育実践にかかわる基礎的知識を理解したうえで、授業づくりに必要なコミュニケーション力が実践できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学校教育実践や授業づくりに必要な用語の意味が理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			

C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60		40			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)				○			
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	シラバスの精読
2	教育実習への抱負 (授業づくり教科指導、総合的学習、NIE、特別活動)	演習	レジюмеなどの準備
3	教育実習への抱負 (生徒指導)	演習	レジюмеなどの準備
4	実習校の調査研究 (生徒、学校経営、校務分掌、特色ある教育活動)	演習	レジюмеなどの準備
5			
6			
7			
8	教育実習の成果と反省	演習	レジюмеなどの準備
9			
10			
11			
12			
13	教育実習報告会の準備	演習	レジюмеなどの準備
14			
15	教育実習報告会	発表	報告準備

備考	
----	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容																			

## I. 科目情報

科目名（日本語）	高校教育実習	単位	2
科目名（英語）	Teaching Practice at High School	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	高校（公民）
標準履修年次	4年	開講時期	前期・後期
担当教員	藤澤健一		
授業概要	教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。教育の実際を教師として体験することにより、学校教育に関する理解を実践的に深める。教職課程において修得した知識と技能を総合的に実践する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	『教育実習手帳』を配布する。藤村裕一『授業改善のための学習指導案』ジャムハウス		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メールで随時、受け付ける。		

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	学校教育における実践知を理解できるようになる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	教員として必要な総合的スキルを実践できるようになる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育者としての使命感と技法を身につけたうえで、その能力および適性を発揮し遵守すべき職務を実践できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育者としての職務内容を正確に理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)					○	
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					○	
備考							

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	原則として2週間、各教育実習校で実施。	実習	実習校で事前に実施されるオリエンテーションなどへの出席。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

## I. 科目情報

科目名（日本語）	教職実践演習（中高）			単位	2
科目名（英語）	Teacher-training Seminar			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	高等学校（公民）、中学校（社会）		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	藤澤健一				
授業概要	これまでの教職課程ならびに教育実習の体験を踏まえつつ、教員として求められる資質を実践的に検討する。教職課程の総仕上げとして位置づけられる。具体的には、教育実習の反省、振り返りにくわえ、現在の学校教育、教職員にかかわる問題について、理論的、実践的に検討する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	教育実習をはじめ、必要な教職課程科目を既修得であること。				
テキスト	国立教育政策研究所『生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導』ぎょうせい				
参考図書・教材等	杉田浩崇ほか『「エビデンスに基づく教育」の関を探る』春風社、2019				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	レスポンスカードあるいはメールで受け付ける。				

## II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	学校教育、教職員にかかわる知識と現状が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	教員としての総合的なスキルを実践できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教科指導、生徒指導において必要な教員としての資質能力を修得する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教科指導、生徒指導において必要な教員としての基礎的な知識を正確に理解できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			

不可：～59 到達目標を達成できていない。

### III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			80		20			100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		○					
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)				○			
備考								

### IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション	講義	シラバスの精読
2	生徒指導場面での戸惑い、発見などを中心に教育実習での体験を実践的に振り返る	講義と討議、ロールプレイ	報告の準備
3			
4			
5			
6			
7	学校教育のかかえる問題(いじめ、不登校、校内暴力、子どもの貧困、非行など)をテーマとして、国や都道府県レベル、市町村教育委員会、学校レベル、さらに学級レベルでの取り組みを総合的、実践的に考察する。	講義と討議	報告の準備
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容																			